

---

# ナギとハヤテと召喚獣

Wagtail

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナギとハヤテと召喚獣

### 【Nコード】

N9427Z

### 【作者名】

W a g t a i l

### 【あらすじ】

GWで遺産相続の権利を失ってしまった三千院ナギが執事の綾崎ハヤテと共に転校する先は、なんと文月学園！？

## ↳プロローグ（前書き）

できるだけ原作に沿わない形で書いていくつもりなのでキャラ崩壊が起こる可能性があります。ご注意ください。

## プロローグ

五月、ゴールデンウィークが終わり緩んだ生徒達の気を、教師が必死に引き締めを図っているころ、文月学園の門の前に二人の少年少女がいた。

少年が校舎を見上げながら言った。

「いよいよですね、お嬢さま」

「そうだな、ハヤテ。で、これが新しい学校か？」

「はい、ここが文月学園です」

少年は顔を曇らせた。

「……もうしわけありません、僕のせいで遺産相続が……、そして学校まで……」

「いいんだ、それにあそこは広すぎたからな」

「ですが……」

少女は、少年の顔を覗き込んだ。

「ハヤテ、私はお前と一緒にいてくれるならどこでもいいのだ。だから……」

「はい、過去でも未来でも・・・僕がお嬢さまをお守りします」

少年は、決意を込めた表情で言い切った。

「うむー！」

少女は満面の笑みを浮かべた。

## くプロローグく（後書き）

処女作です。まだ慣れなく、駄文ですが生暖かい目で見ていって下さるとうれしいです。新年から本格的に書いていく予定です。

「この時期の転校は八〇七の古〇で十分です」

side 明久

「・・・今日は転入生を紹介する」

鉄人はHRで教室にやってくるなり、そう言った。

「女子ですか、女子だよな、女子に違いないよな!？」

「男の娘でも可!!!」

みんな、突然のことですごく盛り上がった。

当然、僕もすごく楽しみ、「女子、できれば胸が大きくてポニーテイルなら最高!!!」

「この時期にめずらしな……。それと明久、自分の性癖漏れてるぞ?」

「あ……………」

「……………明久、貧乳もステータス」

「お主達、本当に大丈夫なんじゃろうか…………?」

後ろでは美波と姫路さんがなんだか親の敵のようにお互いのある一点を見ていた。どうしたんだろう?

鉄人は周りを見てため息をすると、

「一人は男子で、もう一人は女子だ」



「雄二、知ってるの？」

「あ、ああ。まあな」

「自己紹介をしてくれ」

鉄人がみんなが落ち着くのを待って言った。

先に金髪の少女がしゃべりだした。

「三千院ナギだ。白皇学院から転校してきた。こっちにいるのが執事の・・・」

「綾崎ハヤテです。同じく白皇学院から転校してきました。皆さんよろしく願います。」





「日本に飛び級制度なんてあったか？」

「白皇学院は日本の法律が効かないところなので」

「というかハヤテ、あの中はもはや異次元だろ」

「  
.....  
.....」

「もう質問はないな。では、今日も各自しっかりと勉学に励むように」

鉄人が出て行くと二人、いや三千院さんの方に質問攻めが始まった。



「あー、・・・ちよつといいか？」

「はい、なんででしょう？」

「俺は坂本雄二、一応Fクラスの代表をしている」

「つまり委員長みたいなものでしょうか？」

「あゝ、泉のやつみたいだな・・・」

「・・・お前たち、試召戦争を知らないのか・・・？」

「なんなのだ、それは？」

「僕たちは急遽、転校してきたのであまりこの学校に詳しくないん

です。」

「そうか、なら……」

～説明中～

「なんだ、この学校にはそんな面白そうなものがあるのか!?!」

「だろ？やってみたいとは思わないか？」

「やる！！」

「お嬢さまがおやりになるというのなら僕も。それに、その…この設備はあまりにもひどすぎると思いますし

ね」

周りには、みかん箱が転がっている。

僕らがこの前の試召戦争で負け、机がちゃぶ台からみかん箱になってしまったからだ。

「まあ、結局俺たちは負けて3ヶ月間、宣戦布告ができなくなってるところだけだな」

「おいっ！！」

「ではなぜ、その話を僕たちに？」

「この学校にいる以上、必ず関わってくるものだからな。」

「へえ、そうなんですか。」

「あとそれと、幼女ナンパ組は置いといて、ほかのメンバーを紹介しておこうと思う。」

雄二は辺りを見回して、

「明久、秀吉、ムッツリーニ、島田、姫路！」

僕たちを呼んだ。

「全員自己紹介を頼む。」



「この時期の転校は八〇七の古〇で十分です」 (後書き)

どこで区切れればいいのかわかりませんでした・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9427z/>

---

ナギとハヤテと召喚獣

2012年1月2日11時50分発行